

お元気ですか？

ogenkidesuka

第87号

2019年10月発行

公立富岡総合
病院ニュース

- エボラ出血熱について
- ICT保健所との訓練を体験して
- 夏休み病院探検
- 禁煙外来を始めました
- 「知って得する健康教室」
「ジャパン・マンモグラフィサウンデー」の
実施について
- 職場紹介5A・5B病棟
- 地域医療連携だより



「水浴びのあとで」 撮影者：黒澤 恵子

発
行

富岡地域医療企業団

公立富岡総合病院

〒370-2393 群馬県富岡市富岡2073-1

☎ 0274-63-2111 🏠 0274-64-1406

✉ tomihp@mail.gunma.med.or.jp

🌐 <http://www.tomioka-hosp.jp>



エボラ出血熱について

内科 竹原 和孝

エボラ出血熱は、エボラウイルスというウイルスによる非常に致死率の高い重篤な感染症です。時に致死率が90%に達することもあるといわれ、また有効なワクチンや治療法も確立していませんが、感染地域がアフリカに限定し、接触感染で拡大するため、感染を避けることが重要と考えられています。

一般的な症状は、突然の発熱、強い脱力感、筋肉痛、頭痛、咽頭痛から始まり、嘔吐、下痢、発疹に続きます。重症であれば出血傾向や意識障害も見られますが、出血傾向もない例もあります。

感染経路としては、感染した動物の死骸や感染者との接触が主たるものとなります。具体的には、感染者の体液（血液、分泌物、吐物・排泄物）や感染した野生動物（チンパンジー、ゴリラ、オオコウモリ、サル、レイヨウ、ヤマアラシなど）の体液が傷のある皮膚や粘膜に触れることで感染します。

大流行しやすい感染症ですが、1976年以降の大流行は、コンゴ民主共和国、西アフリカ、ガボン、ウガンダ、コートジボアール、スーダンなどアフリカ地域に限定されています。

潜伏期は2〜21日と言われますが、発症前の感染者が感染源になることはほとんどないといわれて

いるため、症状のある感染者の体液に直接接触した場合に感染します。症状のない感染者からは感染せず、空気感染もしません。つまり一般的な海外旅行者への感染リスクは低いものの、感染地域に渡航は避ける必要があります。発症した感染者との接触ないし現地の動物の死骸などの接触を避けることが重要となります。

海外旅行を検討の際には、流行地域を避け、また現地動物などの接触を回避するようにお願いします。



(画像出展：東京都感染症情報センターより)

ICT保健所との訓練を体験して

研修医 木村 有希

「エボラ出血熱」という伝染病があります。これは、アフリカが主な発生地域で、患者の体液等に触れることなどで感染します。今年8月頃に本邦でも一時期話題になりました。その際はエボラ出血熱ではありませんでしたが、いつ日本国内で患者さんが発症し、自分のいる病院に受診してきてもおかしくありません。今回はエボラ出血熱を含め、一類感染症の発生に備えることを目的として擬似症患者の届出から第一種感染症指定医療機関への移送までの一連の流れなどを確認し、迅速な対応が取れるよう訓練を行いました。

訓練の内容としては、エボラ出血熱による感染の危険のある地域から、3ヶ月の出張を終え帰国した社員が、帰国3日後に発熱症状などが出現したため、当院に直接受診したというものでした。今回、直接患者に問診をする医師役としての参加となりましたが、普段は着る機会のない防護服を着用しての診察、移送は気をつける点が通常と異なっており大変勉強になりました。また、N95マスクとゴーグル、二重の手袋をつけ、フードまでかぶって完全に防護する必要があるので暑さが大変応えました。当院ではエボラ出血熱の検査はできないため、鑑別としてマラリアとデング熱の検査をします。訓練でも実際に看護師役の方が採血検査を行いました。防護服を着た状態での採血は難易度が高そうでした。

移送の際には、患者の触れるストレッチャーの内側は触れても良いのですが、カバーの外側は感染を拡大させないために触れてはならず、使い慣れないストレッチャーのため固定のベルトの着用到手間取った場面もあり、実際の状況を想定して訓練する重要性を実感しました。

今後実際に一類感染症が疑われる患者さんが受診された際は今回の経験を活かせるようにしたいと思います。





第4回 夏休み 病院探検 を開催しました。

お家の方
乗せて
介助体験!



7月25日(木)夕方5時半から「第4回夏休み病院探検」を行いました。

このイベントは、医療や病院に興味のあるお子さんや保護者の方に、病院の仕事を見学・体験して頂き、医療への理解と興味を深め、将来は医療を支えていく人材になって欲しいという願いで始めたものです。今年4つの部門を体験するという企画で、28名のお子さん、18名の保護者、計46名が参加しました。

○**薬局** 薬を包装する機械を使って、薬に見立てたグミを包装しました。お年寄りなどは、朝・昼・晩に一包化してまとめてくれると、間違いなく飲んで親切ですね。

○**放射線治療室** 人形をX線撮影して、中の様子を見てみました。実際に放射線が出る場所も見えて面白かったです。本当にケガをした時は、骨の様子などもこの機械で撮影出来ます。

○**高圧酸素室** 実際に入ってみ学しました。いろいろな治療に応用できることを学びました。

○**リハビリテーション室** 松葉杖と車いすを体験しました。

松葉杖は初めてだったけど、使い方を教わってちゃんと使えるようになりました。

車いすでは、乗り方の説明に真剣に耳を傾け、安全な乗り方を覚えました。思ったように走れるまで、何度も粘り強く頑張ったお子さんもいました。そのような姿を見て、すごく感心しました。また、お父さん、お母さんに乗せて介助体験もしました。ゆっくり優しく押すことが出来ましたね。

最後に院長より修了証が手渡され「子ども病院探検隊員」に任命さ

粉薬を
量りました



グミを薬に
みたくて
包装しました



れました。解散後、親子で顔を見合わせ、楽しかったね」と笑顔だった姿がとても印象に残っています。薬局でもらった薬袋を大事に抱えて、帰っていく姿も微笑ましかったです。本当に「夏休み病院探検」をやった良かったと思えました。

今回は探検できませんでしたが、病院にはこれ以外にも、医師、看護師、臨床検査技師、事務職員、栄養士、等々たくさんの方が働いています。是非興味を持って頂けたらと思います。

今後も楽しい内容を考えて、より良い「夏休み病院探検」にしていきたいと思えます。

リハビリテーション技術科

櫻井 智

禁煙外来(ニコチン依存症の治療)を始めました。

医療チームがあなたの禁煙をサポートします

従来の紙巻たばこのみならず、新型たばこ(特に加熱式でニコチン有するアイコス等)もニコチン依存症の、治療対象となります。最近、日本呼吸器学会では、新型たばこによる特殊な肺炎(急性好酸球性肺炎)の報告や、米国で電子たばこを吸った後に、深刻な肺損傷で入院する10代の若者が報告され、令和元年9月トランプ大統領は、ほぼ全て販売禁止の方針としました。安全のイメージだけで新型たばこに手を出すのは、お勧め出来ません。



お申し込み方法

禁煙外来は、原則毎週水曜日で、完全予約制です。
受付方法や予約については、直接来院していただくか、お電話でお問合せください。

医療情報課 TEL:0274-63-2111

お知らせ

■外来問診票の記入対象者の拡大

公立富岡総合病院では、受診時の情報を適切に収集し、スムーズな受診につなげるために、9月より、問診票の対象者を拡大して実施しています。

■面会者カード記入のお願い

10月より、入院患者へのお見舞い等で病棟へ立ち入られる方に、面会者カードの記入をお願いすることになりました。

■消費税率改定に伴う影響

障害年金や生命保険の診断書等の文書料、時間外選定療養費、初診時選定療養費、個室料、病衣等は、税率改定により値上げの対象となります。
また、消費税率改定に伴い、10月より診療報酬も改定されます。

ご理解とご協力をお願いいたします。



知って得する健康教室

～健康長寿の3つの柱～フレイル予防～
「栄養・運動・社会参加！」



開催日時

11月10日(日)
 午前8時45分～12時

実施場所

健診センター

参加費

無料

定員

30名(申し込み順)

申込開始日

10月1日(火)から

*当日は動きやすい服装・靴で来てください。

当日の予定

8時45分～受付

健康チェック

10時～

講座「フレイル予防法」

10時30分～

おやつタイム

10時45分～

体験「お口の体操」
 「音読・歌唱でリフレッシュ」

11時20分～

『健康相談コーナー』
 保健師・看護師がお答えします。
 健診結果をお持ち下さい。

J.M.S.
 シン・マンモグラフィセンター

2019年 11月10日 日曜日

多忙な平日をお過ごしの方の女性へ

日曜日に乳がん検査を受けられる日です。

当施設は認定NPO法人J.POSH(日本乳がんピンクリボン運動)が推進するジャパン・マンモグラフィ・サンデー(JMSプログラム)賛同医療機関です。

J.POSH
日本乳がんピンクリボン運動
 〒112-8577 東京都文京区千石1-1-1
 TEL:03-3822-1111 FAX:03-3822-1112
 http://www.j-posh.com/ http://jms-sunday.com/

開催日

2019年
11月10日(日)

事前予約

必要

検査費用

1,000円

検査内容

マンモグラフィ2方向撮影

対象者

富岡市・甘楽町・下仁田町
 乳がん個別健診の対象者の
 のみとさせていただきます

申し込み・問い合わせ先

公立富岡総合病院 健診センター Tel.0274-63-2111



職場紹介 5A・5B病棟

5階病棟は、5A病棟と5B病棟とが統合され、5階のフロアがひとつの病棟になっています。

5Aは主に小児科・耳鼻科・眼科・脳外科・歯科・皮膚科を当該科とします。他科の患者も入院するため、本当に多くの科の混合病棟になっています。幅広い知識が必要となるため、他の科を経験している経験豊富なスタッフから知識を獲得し、看護師は日々自己研磨に努めています。耳鼻科・眼科・口腔外科併せて週3回全身麻酔・局所麻酔の手術を行っています。耳鼻科は放射線療法・化学療法などの集学的治療も行っています。NICUも併設されており、生まれたての赤ちゃんから高齢の方まで患者さんの年齢は幅広いです。時に環境が変わることで高齢の方は表情が変わり、せん妄となって暴力的になってしまうこともあります。子どもさんも入院のストレスで、機嫌が悪くなりずっと泣いている患児さんもいます。そんな中、せん妄の患者さんと、泣いている患児さんが廊下で会い、お互いに笑顔になっていることが時折あり、ほっこりする一場面もあります。

5Bは産婦人科が中心で、妊娠から出産後の方や婦人科手術をされた方などが入院しています。NICUや他科と連携をしながら、富岡地域における主要な分娩施設としてリスクのある患者さんにも、安全で安心な医療を提供しています。また7年程前に改装したため、病棟は明るく綺麗で2つの分娩室やLDR室が備わっています。スタッフはほとんどが助産師で、両親学級や母乳外来、マタニティ・ビクスなどを通して、積極的に妊婦さんや赤ちゃんに関わりながら明るく楽しく働いています。

専門の科が多く急な入院が多い、また、出産は予定できないこともあるため、5階病棟は激務である日があり、日々の変化が著しい病棟です。Aのスタッフ、Bのスタッフが互いに協力し、人手が足りないときはカバーし合いながら仕事をしています。

スタッフは赤ちゃんや子どもの対応していることや子育て中のママスタッフも多く、とても暖かい優しい雰囲気看護師ばかりで、楽しく仕事をしています。今後も安心して入院生活を送ってもらえるよう、「入院するなら、出産するなら、ここがいい!」とだけ思っただけの環境作りをしていきます。





地域医療連携だより

研修等のご紹介

◎ケア・カフェとみおか

日時 10月25日(金) 19:00～

場所 公立富岡総合病院講義室

参加対象者 ケアに携わる方、医療・介護・福祉分野の方など



内容:もしバナゲーム

人生の最終段階において、自分にとって大切だと思える言葉を手元に残しながら、カードを捨てたり拾ったり。最後まで手元に残ったのは？あなたにとってそれはどんな意味をもつのか？人はそれぞれの理由で、大切にしたい想いをもっていることに気づかされます。

◎緩和ケア研修会

日程 11月2日(土)

場所 公立富岡総合病院講義室

参加対象者 群馬県内医療機関に勤務する医師、癌診療に関わる医療従事者



◎市民公開講座「おそれないで、正しく知ろう前立腺がん」

日時 11月15日(金) 18:30～

場所 ヴァンヴェール富岡

講師 町田 昌巳(公立富岡総合病院院長)

参加対象者 地域住民のみなさん

お問い合わせ先

公立富岡総合病院 患者支援係(がん相談支援センター)

TEL.0274-63-2111 FAX.0274-64-1406

E-mail msw2005@tomiokahosp.jp

